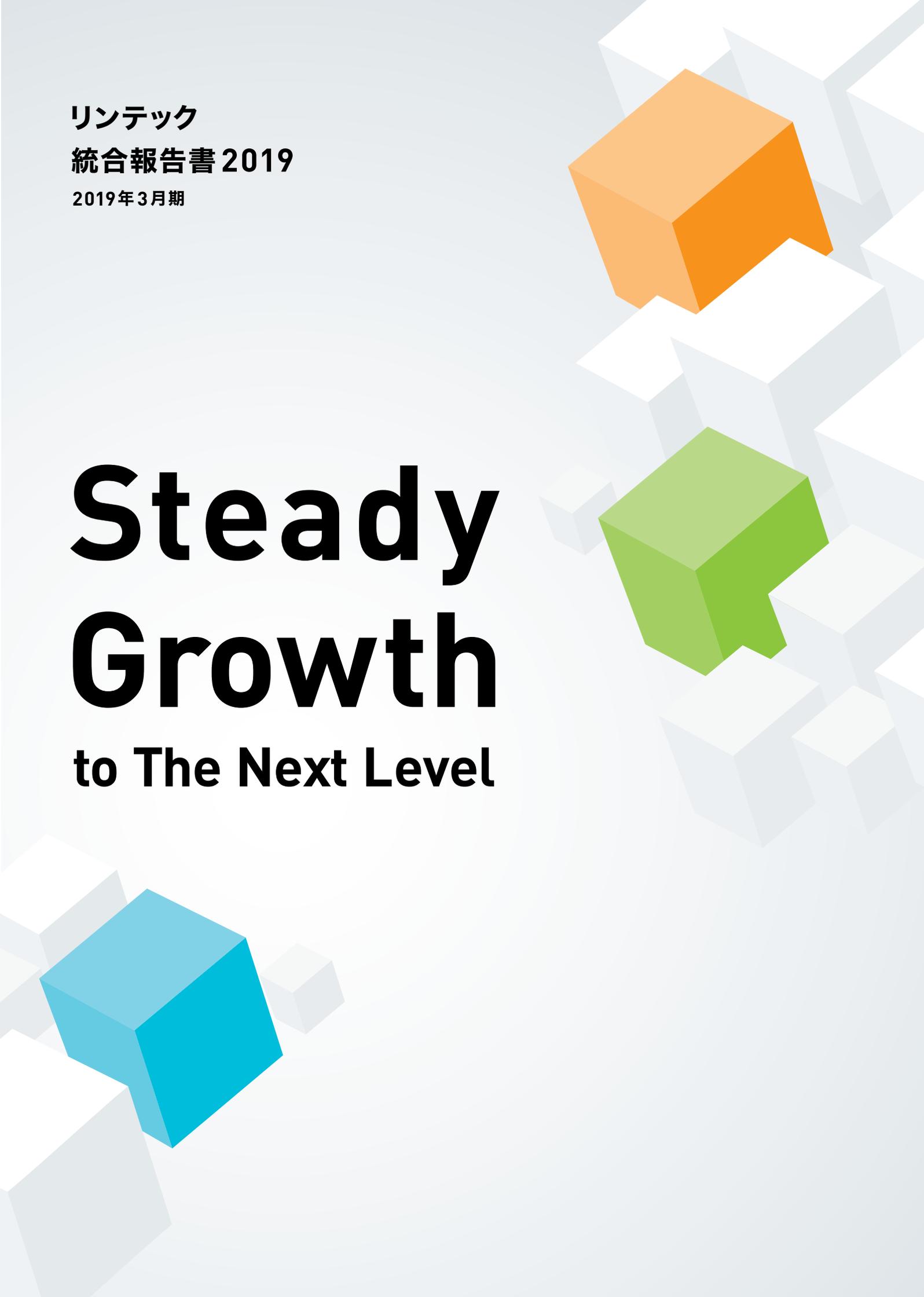


リンテック
統合報告書 2019
2019年3月期

Steady Growth

to The Next Level





編集方針

本報告書は、株主・投資家の皆様に持続的成長と社会全体のさらなる発展への貢献を目指すリンテックグループについてご理解いただくことを目的としています。以下のガイドラインを参考に業績・財務情報だけでなく、当社グループが築き上げてきた研究開発力や人材力など、財務諸表には載らない“見えざる資産”についてもご紹介しています。なお、当社ホームページやCSRレポートには、本報告書にはない情報も掲載しておりますので併せてご参照ください。

参考にしたガイドライン

国際統合報告評議会 (IIRC)	「国際統合報告フレームワーク」
経済産業省	「価値協創ガイダンス」

統合報告書の位置づけ

対象期間

本報告書は2018年4月1日から2019年3月31日までを対象としています。一部の情報については2019年4月以降の内容を含んでいます。

将来の見通しに関する記述

本報告書に掲載されている業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。実際の業績などは今後のさまざまな要因によって異なる可能性があります。

財務情報

報告書



- 有価証券報告書
- 決算短信
- ファクトブック
- 株主通信誌

• 統合報告書

非財務情報

- コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- CSRレポート

WEB



- 株主・投資家情報
www.lintec.co.jp/ir



- CSR情報
www.lintec.co.jp/csr



Overview

会社概要

- P 2 リンテックについて
- P 4 リンテックの歴史
- P 6 リンテックの強み
- P 8 リンテックの価値創造プロセス
- P10 パフォーマンスハイライト
- P12 1年間の主な動き



Strategy

成長戦略

- P14 社長メッセージ
- P20 CFOメッセージ
- P22 Special Feature 1
米国子会社の現状と今後
- P24 事業戦略
- P25 事業統括本部長メッセージ
- P26 印刷材・産業工材関連
- P30 電子・光学関連
- P34 洋紙・加工材関連
- P38 研究開発
- P42 Special Feature 2
製品開発の最前線



ESG

環境／社会／ガバナンス

- P44 ESGの取り組み
- P46 環境
- P50 社会
- P54 ガバナンス
- P62 座談会 社長×独立役員
- P66 役員一覧
- P68 IR活動
- P69 会社沿革



Financial Information

財務情報

- P71 経営者による説明および分析
- P73 事業等のリスク
- P74 財務サマリー
- P76 連結貸借対照表
- P78 連結損益計算書／
連結包括利益計算書
- P79 連結株主資本等変動計算書
- P80 連結キャッシュ・フロー計算書
- P81 株式情報

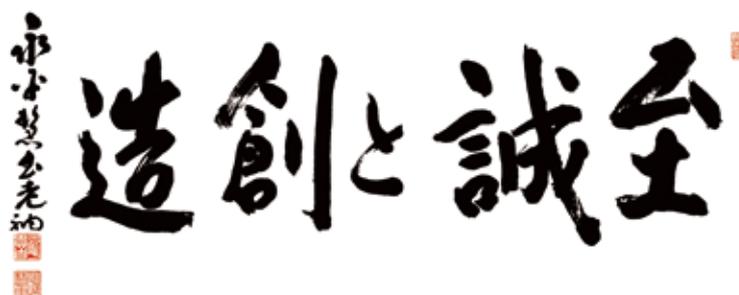
夢を明日へつなぐ技術。 私たちはリンテックです。

技術と技術を融合させ、高次元の価値を生み出す会社。
全社員一丸となり、皆様の夢の実現のために努力を惜しまない会社。
「夢を明日へつなぐ技術立社」リンテックの新たな挑戦に
ご期待ください。

Linkage + *Technology* = 

Linking your dreams

社是



経営理念

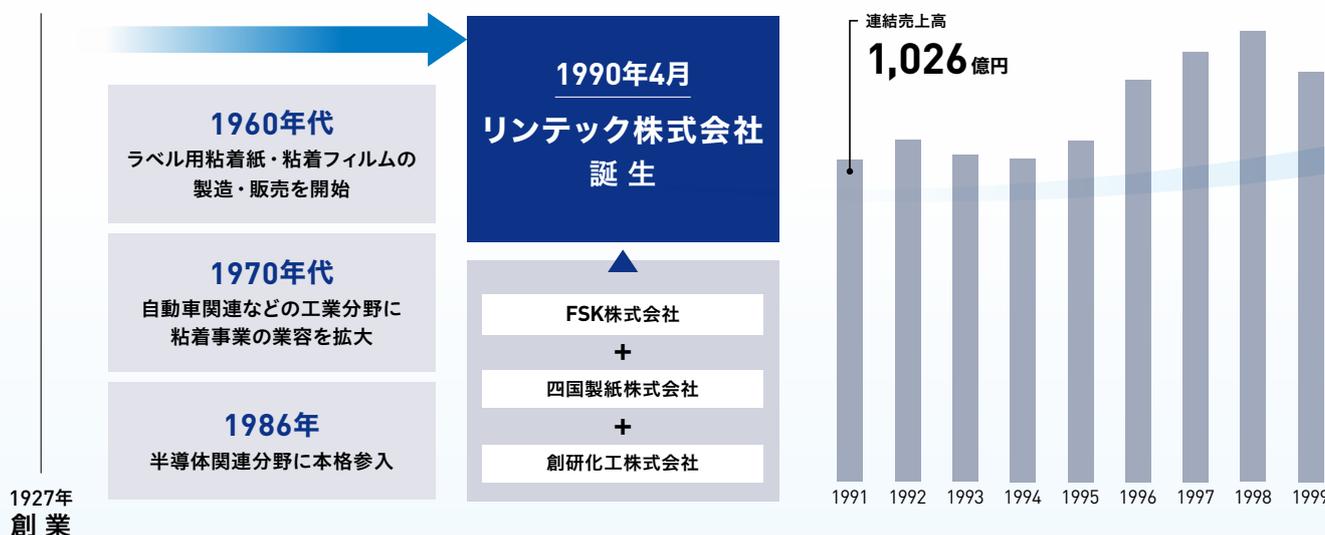
社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ[結合]”と“テクノロジー”および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を基軸とし、国内・海外の業界において、だれからも信頼される力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員家族の期待にこたえる斬新な経営を推進します。

明日を考え、今日を築こう

For tomorrow we build today

時代のニーズを捉えて着実に成長

高度な粘着技術を有するメーカーと剥離紙用原紙の抄造技術および剥離紙・剥離フィルムの製造技術を有するメーカーとの垂直統合。それが、1990年の3社合併による「リンテック」誕生の大きな意義です。同時にこの3社合併が、その後のグローバル展開のスタートとなりました。



1990年まで

1927年に包装用ガムテープの製造・販売で創業した当社は、1960年代に入り現在の主力事業であるラベル用粘着紙・粘着フィルムの製造・販売を開始しました。その後、自動車関連などの工業分野に粘着事業の業容を拡大し、1986年には半導体関連分野に本格参入。そして1990年の3社合併によって、今日における各種粘着製品や特殊紙および剥離紙・剥離フィルムなどのリーディングカンパニーとしての事業基盤を築きました。



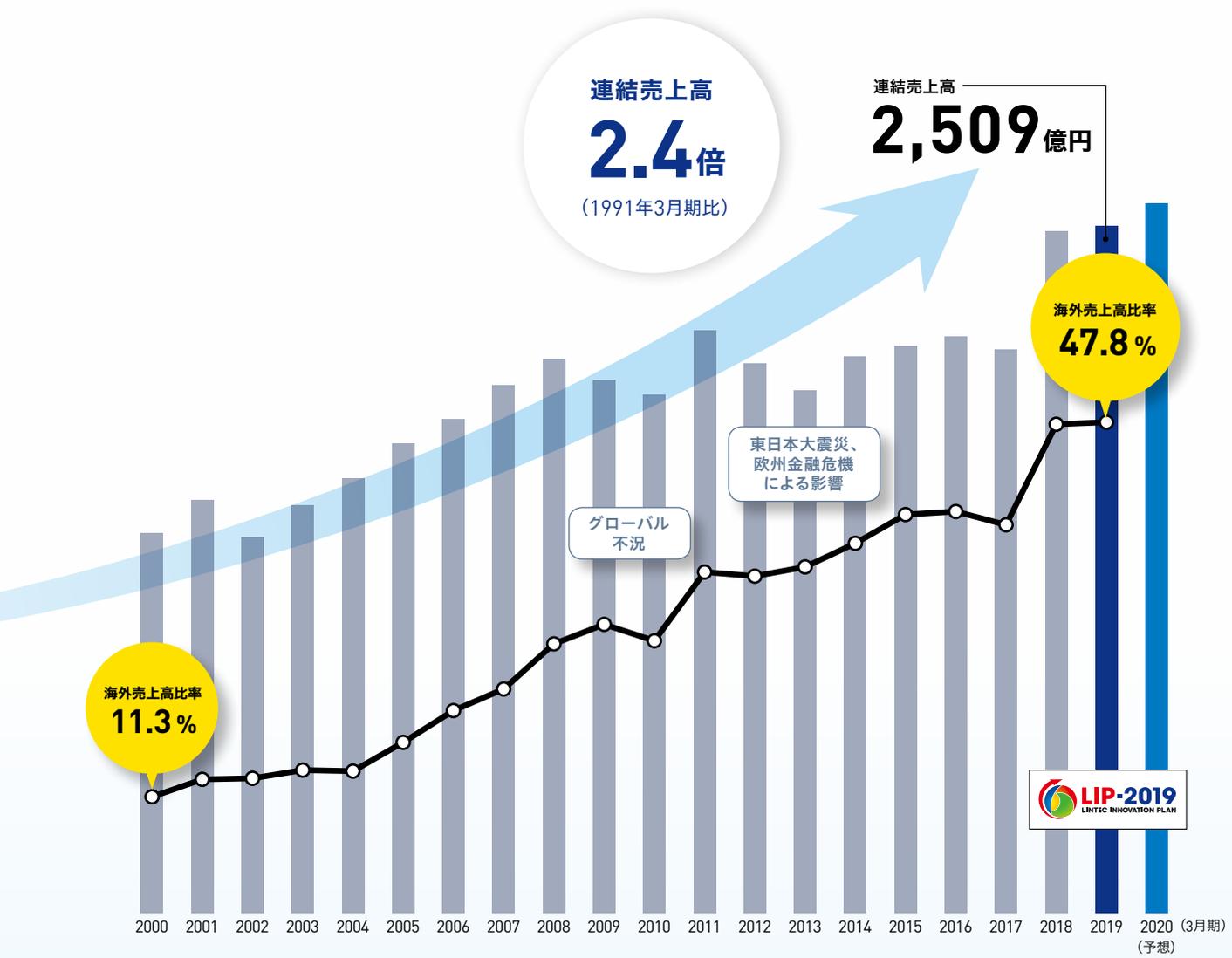
ガムテープ

1990年代

1991年に液晶関連分野に本格参入。また、1994年にはインドネシアにラベル用粘着紙・粘着フィルムの生産子会社を設立し、翌1995年にはシンガポールとオランダに販売子会社を設立するなど、事業のグローバル化を推進しました。一方、国内においては1995年に粘着素材メーカーの買収や研究所の新棟建設を行うなど、事業基盤のさらなる強化を図りました。



リンテック・インドネシア社



2000年代

2000年にマレーシアに電子部品関連の生産子会社を設立したのを皮切りに、2002年から2004年にかけて韓国と台湾に半導体関連や液晶関連などの生産子会社を設立。加えて、アジアや欧州などに半導体関連の販売子会社を相次いで設立したことにより、エレクトロニクス関連事業が当社グループの成長を大きくけん引しました。そのほか、ラベル関連事業においても2002年に中国に生産子会社を設立するなど、グローバル展開を加速させました。



リンテック・コリア社

2010年代

2010年に国内のラベル用粘着紙・粘着フィルムの主力生産拠点である龍野工場(兵庫県)の再構築を完了させたほか、2015年には研究所(埼玉県)の先端技術棟を新設するなど、国内において生産・研究開発体制の強化を図りました。そして2016年には、売上高350億円超を誇る米国の粘着素材メーカーなど欧米3社を相次いで買収し、新たな成長のステージを迎えました。



龍野工場 製品自動倉庫

安定成長を支える二つの強み

粘着応用技術をはじめとする四つの基盤技術、そして一つの業界に依存しないバランスの取れた事業ポートフォリオによる収益構造。この二つが当社の安定成長を支えてきた大きな強みといえます。

素材と装置の トータルソリューション を実現

リンテックでは長年培ってきた「粘着応用技術」「表面改質技術」「特殊紙・剥離材製造技術」を駆使し、剥離紙用原紙の生産から剥離剤の開発・塗工、粘着剤の開発・塗工、表面基材の改質加工まで、粘着製品の一貫生産を実現しています。さらに「システム化技術」によって、粘着製品の特性を最大限に引き出す関連機器の開発・生産も行っており、素材と装置のトータルソリューションの提供を実現しています。

四つの基盤技術

表面改質技術

紙やフィルムの表面に化学的・物理的処理を施すことで、その性能を高めたり、新たな機能を付加したりします。

粘着応用技術

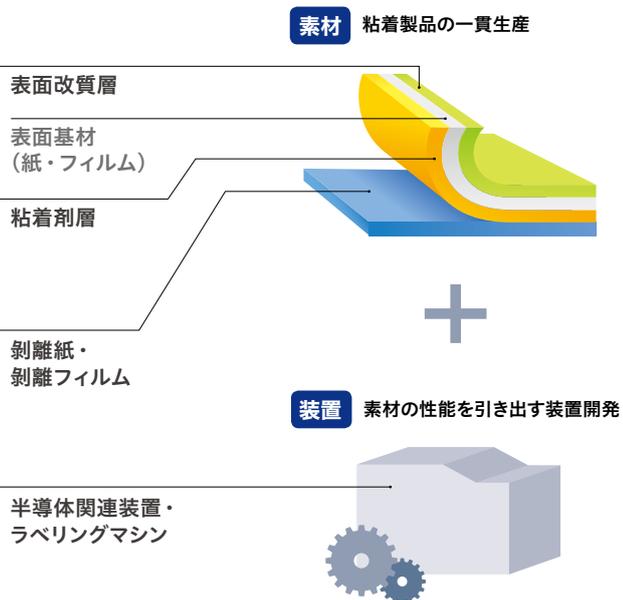
粘着剤、各種基材の開発およびその複合技術により、「貼る」「剥がす」という粘着製品の基本機能の応用領域を拡大します。

特殊紙・剥離材製造技術

独自の抄紙技術や塗工、含浸、貼合技術などを駆使し、従来の紙の概念を超える特殊機能紙や高付加価値材を開発します。

システム化技術

機械・装置のシステム化をはじめ、素材の特性を生かした高度なシステム構築で、先進のソリューションをご提案します。

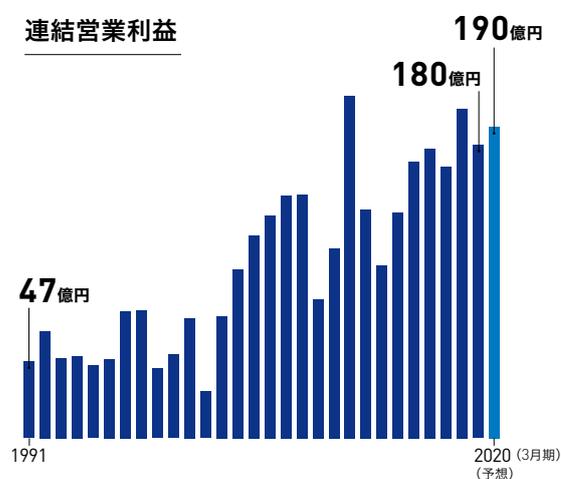


一つの業界の市況に 左右されにくい 安定的な収益構造

リンテックの多彩な製品群の中でも、半導体関連、電子部品関連、光学関連分野の製品は、市場の急速な拡大を背景に、近年の当社グループの業績をけん引してきました。一方、食品や飲料、日用品、家電製品、医薬品などに使われる主力のラベル用粘着製品は、売り上げが比較的安定しており、業績を下支えする分野といえます。このように成長事業から基盤事業まで、特定の産業界に依存することなく幅広い業界でビジネスを展開していることが当社の特徴です。一つの業界の市況に左右されにくいと、安定的な収益を確保することができ、今日まで営業黒字を維持し続けています。

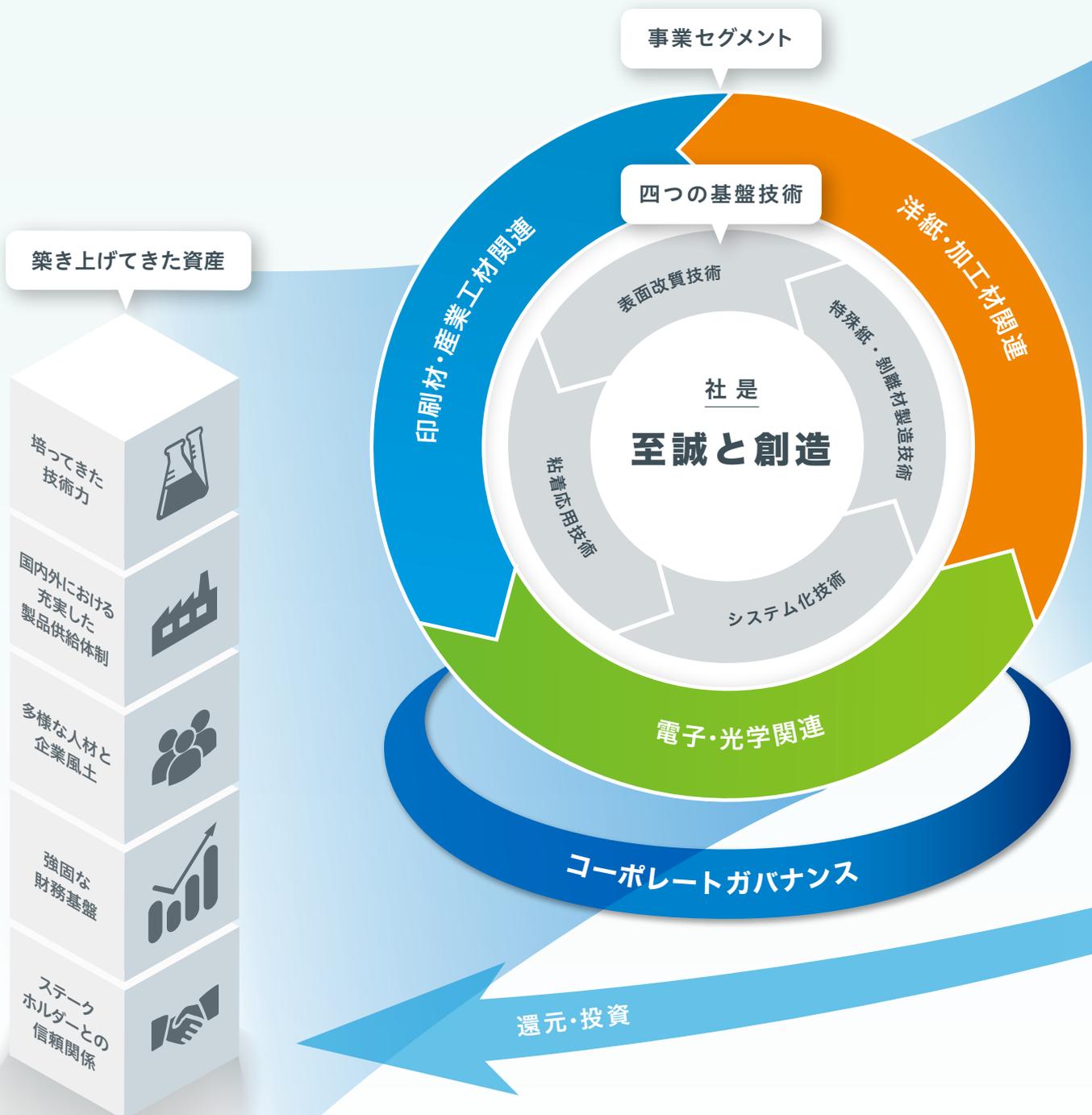


連結営業利益



リンテックの価値創造プロセス

創業から現在に至るまで、リンテックグループは数多くの資産を築き上げてきました。社は「至誠と創造」の下、これらの資産を活用してさまざまな製品を開発・製造・販売し、社会や顧客の課題の解決に貢献しています。ここから生み出された利益をステークホルダーに還元するとともに、将来への投資を行うことで、さらに新たな価値を創造していく。当社グループではこの価値創造プロセスを通じて、社会と共に持続的な発展を目指しています。



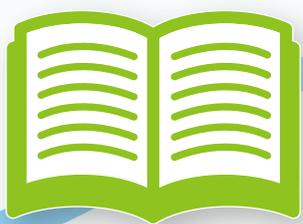
社会とリンク双方の 持続的な発展



SDGsの達成への貢献



社会や顧客の課題解決を通じた
価値創造



パフォーマンスハイライト

リンテック株式会社および連結子会社（環境関連情報はリンテック単体）の数値です。各年度の表示は3月31日に終了した期を表しています。

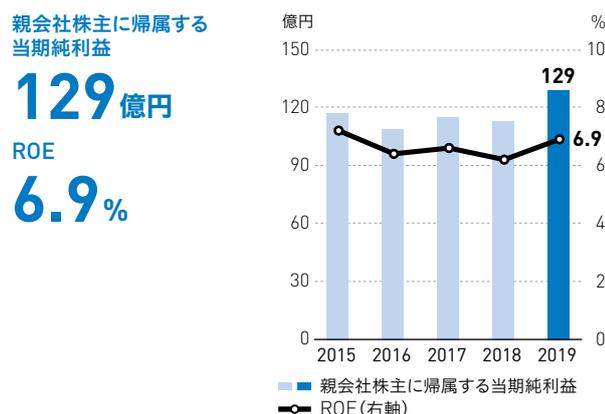
財務情報

売上高



産業工材事業部門やアドバンスマテリアルズ事業部門の売り上げが伸びたことなどによって、過去最高の売上高となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



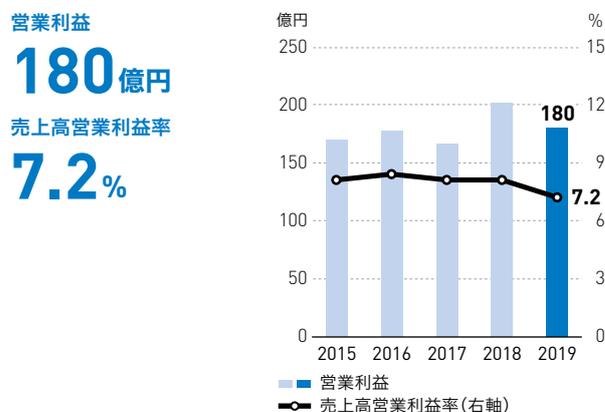
前期に米国子会社におけるのれんの減損損失や事業構造改善引当金繰入額を特別損失として計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は増加し、ROEも改善しました。

総資産／純資産



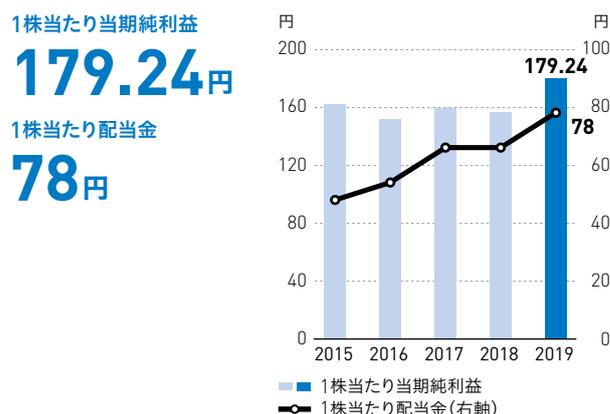
のれんの減少などによって総資産は減少しましたが、利益剰余金の増加などによって純資産は増加しました。なお、自己資本比率は65.3%となりました。

営業利益／売上高営業利益率



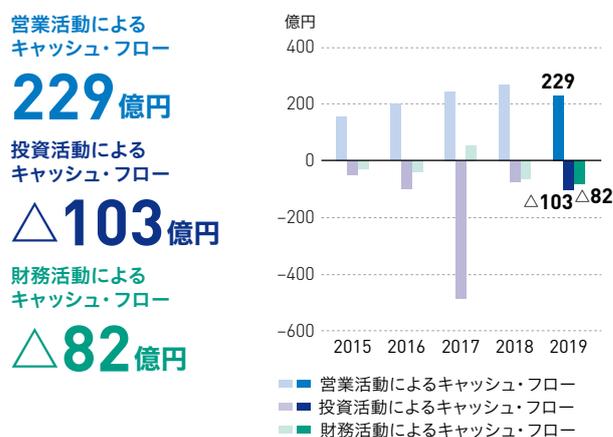
単体における販売数量の減少や売上構成の悪化に加え、パルプを中心とする原燃料価格の上昇などにより、営業利益は減少し、売上高営業利益率も悪化しました。

1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



安定的かつ継続的な配当を行っていくという基本方針の下、1株当たり当期純利益の増加に伴い、1株当たり配当金は過去最高となる78円としました。なお、配当性向は43.5%となりました。

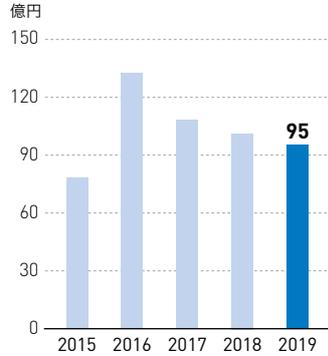
キャッシュ・フロー



営業活動によるキャッシュ・フロー(CF)は「+」、投資活動によるCFは有形固定資産の取得などにより「-」、財務活動によるCFは配当金の支払いなどにより「-」となりました。

設備投資額

95億円



米国・マディコ社の経営合理化に伴う生産拠点の再構築や、吾妻工場(群馬県)の剥離フィルム塗工設備の増築などにより、設備投資額は95億円となりました。

減価償却費／のれん償却額

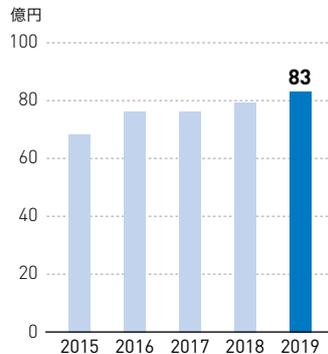
減価償却費
87億円
のれん償却額
33億円



減価償却費は87億円となりました。また、のれん償却額は2016年末のマックタック・アメリカ社の買収に伴うのれん償却を主に、33億円となりました。

研究開発費

83億円

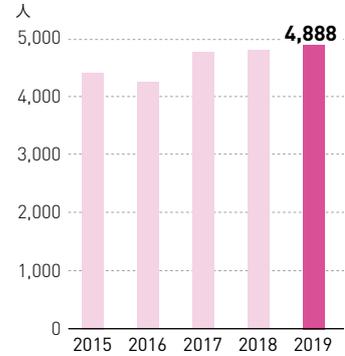


“技術立社”を標榜する当社では、国内外で研究開発力の強化を進めています。当期の研究開発費は前期比4億円増の83億円となりました。

非財務情報

従業員数

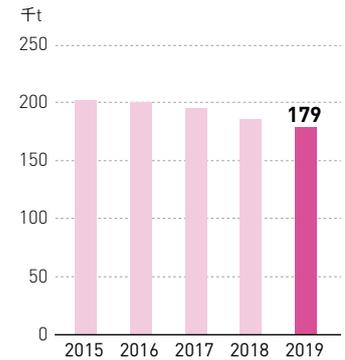
4,888人



連結従業員数は前期末比で94人増の4,888人となりました。なお、リンテック単体の従業員数は2,573人となっています。

CO₂排出量

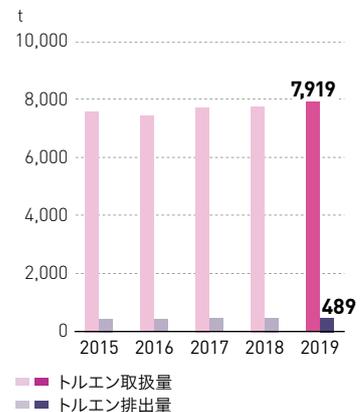
179千t



各生産拠点において環境負荷低減に向けた新規設備の導入や生産工程の見直しを推進し、CO₂排出量は前期比で7千t減少し、179千tとなりました。

トルエン取扱量／トルエン排出量

トルエン取扱量
7,919t
トルエン排出量
489t



揮発性有機溶剤であるトルエンは、主に粘着剤・剥離剤の塗工時に使用され、当社ではその取扱量・排出量の低減を目指しています。当期は生産量の増加に伴い、前期比で微増となりました。

1年間の主な動き

2018年4月から2019年3月までの当社グループの主な取り組みやIR活動の状況、新製品などについてご紹介します。

CORPORATE

会社情報

1 5月10～12日

タイで開催された東南アジア初のラベル関連展示会「ラベルエキスポ・サウスイーストアジア2018」に出展



2 5月16日

東京ドームのプロ野球公式戦に板橋区在住の障がい者の方や少年野球チームの小学生などをご招待

3 9月6日

「みずほインベストメント・コンファレンス東京」に参加し、海外機関投資家とのIRミーティングを実施

4 9月25～27日

マックタック・アメリカ社が北米最大のラベル関連展示会「ラベルエキスポ・アメリカ2018」に出展



2018

1 2

3 4

4月

5月

6月

7月

8月

9月

A

B

C

D

PRODUCTS

製品情報

A 4月2日

光の反射による映り込みを低減し、ガラスの向こう側をクリアに“魅せる”窓ガラス用低反射フィルムを発売



施工前



窓ガラスの両面に施工後

B 6月1日

特徴的な風合いを持つファンシーペーパーの新製品として、和のテイストを表現するのに最適な抹茶色の各種アイテムをラインアップ



 IRメール配信サービスをぜひご利用ください。

当社では、株主・投資家の皆様へ決算情報や新製品情報などのニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスを実施しています。ご希望の方は当社ホームページのIRサイトよりご登録ください。右記のQRコードから簡単にアクセスしていただけます。



<p>5 10月8日 板橋区在住の障がい者の方や地域の方などを対象にジャズコンサートを開催</p> 	<p>6 11月1日 米国の子会社であるマディコ社が本社機能をフロリダ州の新拠点に移転</p> <p>7 11月30日 障がい者の方などをプロ野球観戦にご招待する取り組みなどが評価され、「東京都スポーツ推進企業」の認定を4年連続で取得</p>	<p>8 12月21～24日 「第87回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛</p> <p>9 2月27日 「SMBC NIKKO Japan Series “Executive Conference Tokyo”」に参加し、海外機関投資家とのIRミーティングを実施</p>	<p>10 3月4日 中国の子会社である琳得科(蘇州)科技有限公司が重慶オフィスを開設</p> <p>11 3月7日 「大和インベストメントコンファレンス東京」に参加し、海外機関投資家とのIRミーティングを実施</p>
---	---	---	---

2019

5	6	7	8	9	10	11
10月	11月	12月	1月	2月	3月	

E

C 6月20日
耐久性に優れた海上輸送用規格対応ラベル素材を発売



D 7月17日
再生PETフィルムを使用したアルミ蒸着タイプのラベル素材を発売



E 2月15日
窓ガラスに貼ることで室内全体を明るくする採光フィルムを発売



施工前



施工後